

K I N D 日本語教室

京都工芸繊維大学
との連携

「日本語教員」とは、外国人の留学生や労働者、またその家族など、日本語を母語としない学習者に日本語を教える教員のことです。本学ではすべての学部において、所定の単位を修得することで日本語教員養成課程修了資格を得ることができます。

日本語養成課程の科目のうち「日本語教育実習Ⅰ（必修）」および「日本語教育実習Ⅱ」は、京都工芸繊維大学との連携にもとづき、本学受講生が京都工芸繊維大学の留学生に対して模擬授業を行います。

※日本語教育実習Ⅰ（必修：集中） 2単位

模擬授業を通して、日本語を教えるための技術を身につけるための授業で、養成課程の必修科目です。

京都工芸繊維大学において「K I N D日本語教室」に応募した留学生に対して、3回の模擬授業（初級）を行います。



※日本語教育実習Ⅱ（集中） 2単位

日本語教員養成科目の総仕上げとして、実際に外国人学習者に日本語教育の授業実践を行なうことにより、日本語教師としての知識、技能、考え方などを身につけるための科目であり、多様な学習者に対応した指導技術、問題解決能力、コミュニケーション力などが求められます。グローバル社会において、自ら考え実践できる日本語教師をめざします。

京都工芸繊維大学において、「K I N D日本語教室」に応募した留学生に対して、10回の模擬授業（中級）を行います。

文化芸術都市京都の文化遺産の 保存・活性化を支える人材育成プログラム

京都工芸繊維大学
他3大学との連携

古都京都には多くの無形文化遺産があり、京都市は、優れた文化・芸術を保存、再生、創造する取組を進め、文化芸術都市として創生することを目指して「京都文化芸術都市創生計画」を策定しています。

これを受けて、京都市と京都工芸繊維大学、京都市立芸術大学、京都産業大学、京都ノートルダム女子大学の4大学が協力し、京都の有形・無形文化遺産の保存・活性化を支える人材育成のためのプログラムを実施しています。

単位互換科目を学期始めに登録し、単位修得して所定のエッセイを書くことで、4大学の学長による修了認定証が交付されます。



【科目例】

区分	科目名
コア科目： 文化遺産基礎科目 (3科目6単位以上取得/ 1科目=2単位+エッセイ)	京の伝統工芸 技と美、 京の伝統工芸 知と美、 京の伝統工芸 知美技、 京の文化行政、 文化財学、 京まち
	日本伝統文化論、 日本年中行事論、 京都学

S. R. さん(心理学科臨床心理専攻 4年次) 2016年度プログラム修了

もともと日本の歴史に興味があり参加しました。

「京の伝統工芸 知と美」という科目では、丹後半島へバスで移動して「天の橋立」や伊根町の「舟屋」(舟のガレージ。重要伝統的建造物)の見学、染色体験をし、日本海に面する京都北部の歴史や伝統工芸に直接触れました。

また、京都工芸繊維大学の留学生も一緒に受講していたので、互いに母国語を教えあったり、日本の伝統工芸を通じて彼らの国の文化を教えてもらったりと、とても充実した経験を得ることができました。